

ろうふくめしる 7月号

2025/6/29・30 2025年度総会 於 岡山市

一部紹介

【1日目】

●岡山にて、2025年度総会を行いました。
初日は、記念講演として、岡崎祐司氏（佛教大学社会福祉学部教授）に登壇いただきました。
「深刻な新自由主義改革の影響と社会福祉からの変革 ― 階級的視点、新しい福祉国家、福祉労働 ― というテーマで、新自由主義改革の本質を岡崎先生の言葉で説かれ、憲法と福祉各法の間に存在する社会福祉基本法案を新自由主義改革に対抗するものとして考えるという新しい福祉国家構想の社会研究運動をされている話も聴くことができました。高齢福祉サービスの基本的性質は公共性にあること、行政は管理監督的立場だけでなく、必要充足を点検し、必要充足できるようにすることに責任を有するべきだということもお話されていました。社会福祉の性格に規定される権利性や社会的使命や公共性に相応しい労働条件が必要であり、それは市民的にも理解を求める必要があること、福祉労働現場の崩壊は、これらの労働条件と「やりがい」とのギャップもあるとお話されていました。老福連らしさを強く感じることができた記念講演であったと思います。
岡崎祐司先生、ありがとうございました。

【2日目】

●討論の時間で発言のあった11名

●第22回職員研究交流集会in大阪の成功

（山中宏和さん）

②ケアハウス交流会の報告と継続

（阿藤広志さん）

・2024年度は2回の交流会を開催。事業種別としても少数であること、地方自治体の一般財源化の中でのローカルルールにより、抱える矛盾や課題を共有しにくい状態がある。老福連という横の繋がりを強化していきたい。2025年度も交流会を予定する。

③人材確保・外国人雇用について

（光永了円さん・小川泰樹さん）

・約10人の外国人雇用をしている。支援会社も複数ありその選定にはポイントがある。また就労定着への支援も多様。経済的負担や日本人職員との業務量や待遇面のバランス、宗教的配慮と勤務調整、離職と採用のタイミングなどの課題がある。大阪集会上に3名の外国人職員が参加。研修レポートからもモチベーションアップがわかった。

④中国ブロックの取り組み報告

（須田英男さん）

・2012年（岡山）、2014年（島根）の集会を契機に中国ブロックとしての活動開始。新型コロナウイルスが世界中に拡大するなか、老福連の中でも中国ブロックは負けずにできることを重ねてきた。

⑤ともに歩みだす地域活動報告

（梅津隆夫さん）

・とかみふれあいセンターは2008年に地域活動の拠点として開設。高齢者の生きがいづくり、市民交流の場、暮らしの相談場として、地域住民や市民を運営委員として職員が事務局機能を担って継続。新型コロナウイルスによる休止時期もあったが、期待の声により再開！

⑥ヘルパー交流会・訪問介護報酬引き下げ

(齋藤麻理さん)

・2024年介護報酬引き下げへの憤り。ヘルパーひとりひとりが知識と技術と経験を活かし、利用者に向きあう責任のある仕事。ヘルパー不足やヘルパーの高齢化など課題が山積。新潟県村上市は「訪問介護事業所支援策」を打ち出し、車両燃料費支援金と合わせて、年間1400万円を予算化。村上市の高橋市長は「自信をもって援助してください。事業所のことには行政が守ります」と言われた。訪問介護の未来をつぶす報酬改定の撤回を訴える！

⑦白十字ホームの看取り事例

(松下かほるさん)

・様々な看取り体験を行った。利用者の思いにそって専門職間での相談を密に行っている実践がある。

⑧DX・生産性向上について

(小林浩司さん)

⑨報酬改定影響調査と厚労省交渉

(藤田隼平さん)

⑩ピース・アクションin広島

(佐々木政布さん)

⑪第23回職員研究交流集会in愛知の紹介

(篠田淳治さん)

一部紹介

●今回の総会におきまして、第1号議案～第6号議案まで、可決されました。

・2025年度は、3年に一度の「全国老人ホーム施設長アンケート」に取り組む年度になります。この取り組みの結果を厚労省への要望行動に繋げていきます。

・平和活動として、「第1回ピース・アクションin広島」を開催します。戦後80年の今年に、「一人ひとりができることから動き出そう」というスローガンのもと、広島の地から動き出します。

・2024年度に引き続き、種別ごとの交流機会や学習機会を設け、老福連としての繋がりと学びの深化をねらいます。

・地域ブロックごとの活動について、本部事務局とともに検討します。各施設・法人内の人事異動などにより、新たな関係性の構築が求められる状況があります。

・現在、会員施設は94施設、賛助会員は19名です。会員同士が繋がりが続け、支え合えるように会員拡大をめざしていきます。

・幹事として務めてくださった松尾守さん(富山・しらいわ苑)が退任されます。長きにわたりが尽力いただきました。ありがとうございます。今後とも老福連をご支援くださいますようお願い申し上げます。新たに幹事に「ご就任くださいましたのは、廣田雅子さん(石川・なんがやすらぎホーム)です。これまでも施設長として老福連にご協力いただいております。新しい幹事として、改めてよろしく願っています。本部事務局の人事に変更がございます。藤井歩さんから、橋本信夫さんに変更となります。どうぞ、よろしく願っています。

□全国老人ホーム施設長アンケートについて、お知らせ□

Googleフォームによる回答方法か、アンケート用紙による回答方法(封筒の「ご返送」にて、8月31日が×切となります。

・介護保険制度のあり方を聴く設問、人員確保・定着・職員処遇を聴く設問、報酬改定の影響や事業をめぐる動向を聴く設問などを回答いただきました。今回、医療と介護の連携の推進や、ホームヘルパーなどの設問を用意しました。また、養護老人ホームや軽費老人ホーム(ケアハウス)についてのアンケートを別途作成しています。

・2027年に予定されている介護報酬改定に向けて、全国老人ホームの施設長の声を私たち老福連が届けなければなりません。2019年・2022年は回答数が2000人を超過しました。みなさんのご協力をよろしく願っています。

21・老福連

第23回 職員研究交流集会 in 愛知

2025年12月14日（日）－ 15日（月）

ロワジールホテル豊橋（愛知県豊橋市）



ほい！

わしんとうが（私たち）が
やらんで誰がやるだん！

～”いきる”を彩る福祉のちから～

介護保険制度の施行から25年。

制度の枠の中で揺れ動く福祉の現場には、日々多くの矛盾や困難が立ちはだかっています。人手不足、低処遇、厳しい経営環境、制度の変化…。

福祉を取り巻く状況は、私たち職員にとっても、サービスを利用される方にとっても、決して十分なものとは言えません。

そんな中でも、私たちは一人ひとりの生活の一番近くに寄り添い、その人がその人らしく「生きる」ことを支え、そしてそこに彩りを添える存在でありたいと願っています。

「わしんとう（私たち）」がやらずに、誰がやるのか――。

この問いかけには、次代の福祉を担う決意と、地域に根ざして生きる人々とともに歩み続ける覚悟が込められています。

私たちは、福祉の仕事に誇りと希望をもって取り組みたい。

笑顔で寄り添い、ともに笑い合い、日々の中で幸せを分かち合いたい…。

現場には、そんな思いを支える工夫や創造、仲間との支え合い、そしてたくさんの笑顔があります。

この研究交流集会が、そうした日々の実践や想いを持ち寄り、つながり、力に変え、未来へとつながる場となることを願っています。

1日目 全体会

○オープニング
ソプラノコンサート

○特別講演
「生涯健康脳になるコツと大切な習慣を教えます」
講師：瀧 靖之 氏

○基調報告
井上ひろみ事務局長

○参加型討論会



1日目 交流会

お楽しみのひとつ 交流会

愛知ならではの企画と全国の仲間との交流をお楽しみください！！

皆さんをお待ちしております



2日目 分科会

A 施設でのその人らしい暮らしを支える

- ・豊かな生活を支える取り組み
- ・高度化した高齢者への対応
- ・食について考える
- ・多様な住まいの役割と課題
(養老、軽費、ケアハウス、有料老人ホーム、付帯住宅等)

B 在宅・地域での暮らしを支える

- ・通所介護、短期入所介護の取り組み
- ・小規模、複多機、訪問介護の取り組み
- ・地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の取り組み

C 社会福祉法人運営を考える

- ・介護保険25年の歩みと今後に向けて
- ・育ちあい育てあう職場づくりへの取り組み
- ・民主的な運営に向けた取り組み
- ・職員の確保・育成、外資系雇用、世代交代・幹部育成
- ・地域との関わり、居場所づくり
- ・法人本部機能の役割と課題
- ・経営課題（稼働率、収支差額確保、大規模修繕・運営など）

D 事故・苦情・リスクマネジメント

- ・安心・安全な暮らしに向けた取り組み
- ・災害に対する取り組み
- ・苦情や要望、接遇に対する取り組み

開催要綱を近日中にお届けいたします。
開催要綱をお読みいただき、多くの職員の方の参加申込をお願い申し上げます。

これまでは参加申込による参加受付をしてきましたが、今回はロワジールホテル豊橋の宿泊数把握の為、9月中には、一旦参加申込予定数をお聞きすることになります。実行委員よりご連絡を差し上げることがあると思います。なにとぞ、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。



PEACE ACTION

一人ひとりができることから動き出そう

【1日目 9月21日(日)】

【2日目 9月22日(月)】

12:30	受付開始 (リファレンス広島小町)
13:00 ~13:30	オリエンテーション
13:30 ~15:00	講義Ⅰ 『ノーベル平和賞を核時代 80 年につなぐ』 講師: 田中 聡司氏 (広島県被団協・被爆を語り継ぐ会)
15:00 ~15:20	休憩
15:20 ~16:50	講義Ⅱ 『核兵器禁止条約の歴史的意義とは』 講師: 高橋 信雄氏 (広島県原水協 代表理事)
16:50~	移動・チェックイン
18:00 ~20:00	夕食交流会(生駒の間) (ホテルマイステイズ広島平和公園前)

9:30	受付・2日目オリエンテーション (原爆ドーム前集合)
9:30 ~11:30	フィールドワーク「広島平和記念公園碑巡り」 ※4グループに別れてフィールドワークを行います。
11:30 ~12:00	閉会式・振り返り (平和記念公園内で行います)
12:00	解散

※2日目のフィールドワークは現地集合となっています。ホテルをチェックアウト後、荷物を持って現地(原爆ドーム)までお越し頂くか、ホテルに荷物を預けて集合してください。

講師紹介&スケジュール

広島県被団協・被爆を語り継ぐ会 田中 聡司氏
1944年(昭和19年)生まれ

【略歴】

日本原水爆被害者団体協議会代表理事、広島被爆者団体連絡会議事務局長、広島県原爆被害者団体協議会理事、広島市原爆被害者の会副会長、ヒロシマ学研究会世話人など(以上現職)。早大卒。中国新聞社論説委員。「広島新史」「広島市原爆被爆者援護行政史」など執筆。



広島県原水協代表理事 高橋 信雄氏
1939年(昭和14年)生まれ

【略歴】

1961年~ 広島市立中学校社会科教師(~1999年)
1996年~ 全広島教職員組合執行委員長(~2000年)
1990年~ 広島教育研究所事務局長(~2018年)
1999年~ 原水爆禁止広島県協議会(広島県原水協)代表理事



申込〆切は、**7月20日**です。同封してあります開催要綱の申込用紙を用いてお申込みください。

戦後80年、今年に絶対この企画をしたいと強く願った人が練った企画です!! 戦争そのものを知る人が減少していく中で、戦争や核兵器を反対をする絶対数が変化する時代になるのではなることが危惧されます。いま私たちができることはなにか? お二人の講演を聴き、考えましょう! そして二日目のフィールドワークでさらにその考えを深めましょう!